1996年8月1日発行

みなみかわち 町議会ネットワークニュース（第88号）



村尾光子
祇園五丁目11-3
TEL&FAX:44-5418



磯辺香代
祇園二丁目8-2
TEL&FAX:44-6621



荒井英子
祇園四丁目5-12
TEL:44-5136

今回は平成8年第3回臨時会（7月19日）の報告です。常任委員会の視察研修も合わせて報告いたします。

《審議事項》

推薦第 2号	南河内町農業委員会委員の推薦について（詳細は2ページへ）	投票	
議案第23号	町有財産の取得について	賛成全員	可決

※議案等の番号は暦年毎の通し番号です。

《視察研修》

☆磯辺香代
建設常任委員会
①新潟県関川村
『道の駅』

☆村尾光子
教育民生常任委員会
①宮城県南郷町
『24時間巡回型ホームヘルプサービス』
②宮城県中新田町
『文化会館（バッハホール）』

☆荒井英子
経済常任委員会
①群馬県玉村町
『農業公社』
②山梨県鳴沢村
『道の駅』

もくじ

★議会推薦農業委員決まる！

（報告：村尾光子）

任期満了の７月１９日を目前に控えた１７日、臨時議会にて３名の方を議会推薦と決めました。任命権は町長にあります。任期は７月２０日からＨ１１年７月１９日までの３年間。推薦方法は会議に諮り投票により決めました。

（多数決により、単記無記名・３回投票）

《開票結果》出席者１７名（上野喜八郎議員は海外研修のため欠席）（敬称略）

１回目		２回目		３回目	
有効票	１７票	有効票	１６票	有効票	１６票
◎飯野兵二郎	１２票	◎塚原洋	１２票	◎吉田浩二	１２票
秋山和子	５	秋山和子	４	秋山和子	４

◎印：当選者

推薦は『投票』による方法で決めることで一致しましたが、単記無記名の投票を一回行うか、三回行うかで意見が分かれました。

《このときの意見》

小池議員：投票によるなら、地方自治法118条に基づき単記無記名一括でお願いする。

村尾：議案は推薦であり、選挙ではない。しかし、投票による方法をとるなら地方自治法118条を準用し、その4項にある「一の選挙に二人以上の被指名人がある場合は、被指名人を区分して会議に諮ってはならない」という規定に則ってほしい。

伊沢剛議員：３回の投票でお願いする。

審議途中で暫時休憩し、農業委員の議会推薦の方法について県地方課に問い合わせをしました。その結果は次の通り。

> 農業委員会委員の推薦は、農業委員会等に関する法律第１２条２項に基づくもので地方自治法９６条１項１５号の議決事件である。選挙にあたらず１１８条の適用はない。推薦方法は各議会による。

結局は採決の結果、三回投票となりました。（敬称略）

一回に賛成者	荒井・小池・村尾　（他には起立を確認できなかった）
三回に賛成者	大島・塚原・海老原・小林・伊沢(義)・飯野・高山・黒川・早川 舘野(安)・伊沢(剛)

議会での選挙は公職選挙法に基づき、厳正に行われます。正副議長選挙や選挙管理委員会委員等がこれに該当します。選挙には、投票による方法と指名推薦による方法があります。指名推薦は全員一致してが条件です。

さて、今回の議案は議会『推薦』であり、『選挙』ではありません。どんな方法で推薦するかはそれぞれの議会で決めればよいのです。で、投票による方法と決めました。それなら単記無記名一回で、と小池議員と村尾は提案しました。３人を推薦するのに、投票を３回繰り返したら、多数派の思い通りの結果になり、少数意見の入り込む余地が無いからです。私は今回こそ女性委員をと強く希望していたので、この提案と同時に具体名を挙げて推薦し賛同を呼びかけました。

結果は前記の通りです。またしても、多数派の人たちだけで事前に打ち合わせをしている様子がよ～く分かり、きっと、改選後の諸々の議会人事の一環だったのではと感じました。議会推薦は議員でしかも議長経験者、ということが慣例になりつつあることに疑問を感じます。若い意欲的な人材を掘り起こさなくては、町の農業に将来はありません。

『選挙』ではなく『自治法116条の表決』と議長自ら言及しながら、議場を閉鎖したり議長も投票したり何かヘンだった。

それにしても、いきなり投票ではなく、まずは全体での話し合いが必要よ！

地方自治法

第96条(議決事件)普通地方公共団体の議会は、次に掲げる事件を議決しなければならない。

十五　その他法律又はこれに基づく政令により議会の権限に属する事項

第116条(表決)この法律に特別の定がある場合を除く外、普通地方公共団体の議会の議事は出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

②前項の場合においては、議長は、議員として議決に加わる権利を有しない。

第118条(議会における選挙の方法)法律又はこれに基づく政令により普通地方公共団体の議会において行う選挙については、公職選挙法第46条第4項及び第5項、第48条、第68条第3項並びに普通地方公共団体の議会の議員の選挙に関する第95条の規定を準用する。その投票に関し異議があるときは、議会がこれを決定する。

②議会は、議員中に異議がないときは、前項の選挙につき指名推薦の方法を用いることができる。

③指名推薦の方法を用いる場合においては、被指名人を以て当選人と定めるべきかどうかを会議に諮り、議員全員の同意があった者をもって当選人とする。

④一の選挙を以て二人以上を選挙する場合においては、被指名人を区分して前項の規定を適用してはならない。

うらやましい！↓

女性農委8人誕生
栃木県

【栃木】栃木県の市町村に八人の女性農業委員が誕生した。

女性の農業委員は、議会選任委員が六人、選挙委員が二人で、近く氏家町からも一人の女性委員が選任される。これまで市町村の女性委員は葛生町に一人だけだったが、一挙に八人が選ばれたのは初めて。中でも芳賀町は三人の議会選任委員が出て話題になっている。

今回の農業委員統一選挙にあっては、県農業会議が市町村農業委員会に「農業従事者の六割を占める女性の起用と青年の起用」を働きかけた。これを受けて市町村農委も市町村、議会に努力を促がした。

その結果、芳賀町の三人をはじめ、矢板市、湯津上村、葛生町で各一人。日光市、喜連川町に三人の選挙委員が誕生。青年委員も議会選任で矢板市、大田原市で三人が選ばれた。

女性農業委員の年齢は、四十～五十歳代がほとんど。

いずれも働き盛りで、関東では東京都に十人前後の女性農業委員がいるが、同県はこれに次ぐものと同県農業会議は期待している。

日本農業新聞 7月16日

いつシナリオを書いたのでしょうか？。誰が書いたのでしょうか？。３名を順番まで決めて投票するシナリオ。臨時会の前２日間、経済常任委員会の研修であったが、そこではこの話題は一切なかった。わたしは、観客として配役されたようです。シナリオライターになるための道は険しい。勉強不足を実感しました。

…荒井英子…

「投票を1回にすることに賛成の議員はご起立を…」と議長が言ったので私はおしりを浮かそうとしたら、すぐさま「賛成少数により否決されました」となった。私は意志表示していない。議長は少々、あわてていらっしゃったご様子。起立をまってちゃんと数えて下さい。

3人を選ぶのに3回投票するのと1回ですませるのがどのように違うのかご理解いただけると思う。3人を1回の投票で決めるとなるといくら多数派でも3人目をあきらめねばならないのである。選ばれた方々はそれなりの経験と識見をお持ちだし若輩の私から見ればどなたも大先輩である。しかしながら手順、手続があまりにも排他的だ。農業委員って1人たりともゆずれないすごいポストなのだなと思ってしまった。ともかく、歩み寄りの可能性をこっぱみじんに打ち砕くできごとではあった。（いそべ）

☆ふれあいプラザ建設事業用地の取得について

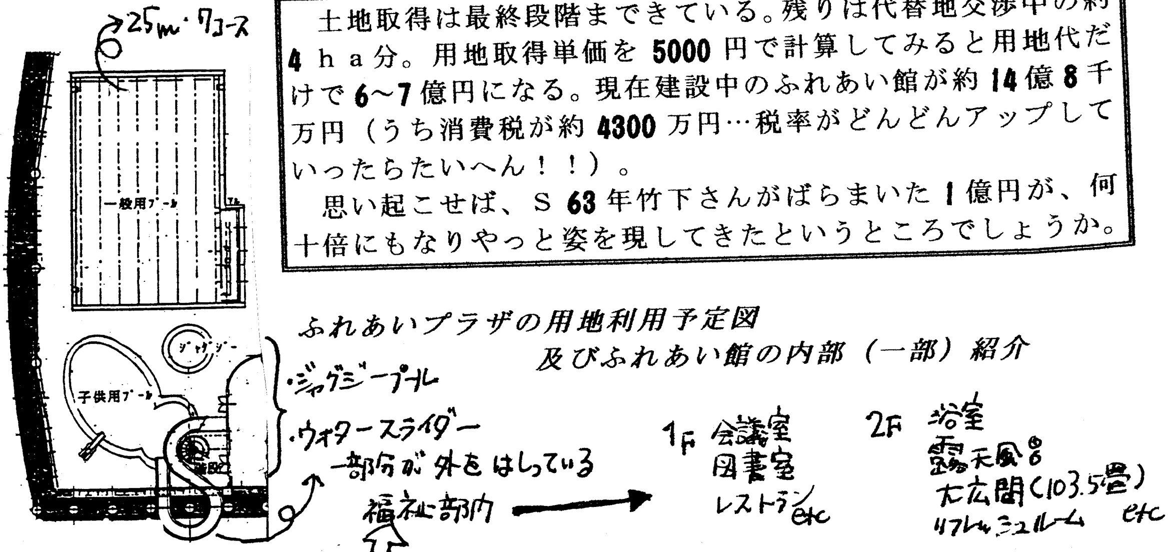
…荒井英子…

・所在地：南河内町大字三王山字上三王637番2
・面　積：20208㎡
・取得額：1億2961万9194円
（内訳）土　地　　1億508万1600円（山林5200円／㎡、田畑5500円／㎡）
立木補償　　363万2667円（伐採費用）
利　息　　2036万1352円（H8.7～10年間　3.3%／年）
事務費　　54万2842円（借り入れ額の1000分の5）

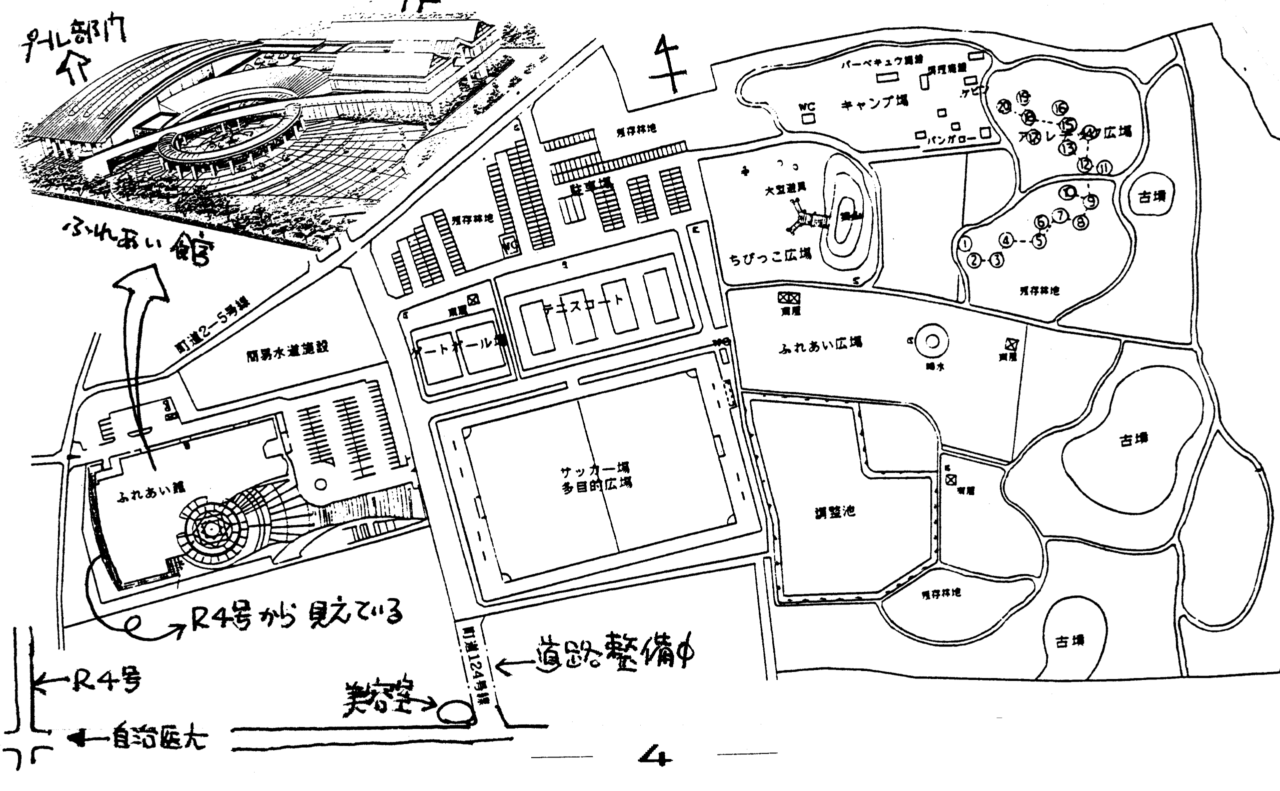
※栃木県町村土地開発公社に対する起債となる。（山林のみ借りられる）

土地取得は最終段階まできている。残りは代替地交渉中の約4ha分。用地取得単価を5000円で計算してみると用地代だけで6～7億円になる。現在建設中のふれあい館が約14億8千万円（うち消費税が約4300万円…税率がどんどんアップしていったらたいへん！！）。

思い起こせば、S63年竹下さんがばらまいた1億円が、何十倍にもなりやっと姿を現してきたというところでしょうか。



ふれあいプラザの用地利用予定図
及びふれあい館の内部（一部）紹介



□ 建設常任委員会視察研修報告　（報告；磯辺香代）



> 日時；Ｈ８年７月４日～５日
> 視察研修先；新潟県関川村（役場）
> 研修内容；「道の駅」の概要について

「道の駅」は、1990年頃、鉄道に駅があるように道路にも駅があってもよいのでは、という提案から実験やシンポジウムが行なわれ、建設省の施策の一つとして結実、1993年から登録が開始されたものです。（中略）同種のものとしてすぐ気付くのは、高速道路のパーキングエリアやサービスエリアです。このＰ．Ａ．やＳ．Ａ．を国道などの主要幹線道路に設けたようなもので、決定的に違うのは通過交通のためのサービスではなく、「道の駅」を基幹として、その地域に滞留し文化を理解し交流を深めてもらうことを指向していることです。

〔建設設計資料〕53道の駅―休憩・情報交流・地域連携：幹線道路に設けた地域づくり機能より

「道の駅」の計画やデザインには定型はない。「休憩、情報交流、地域連携の機能を持った地域と共につくる個性豊かなにぎわいの場」という共通コンセプトのバリエーションを地域毎に展開する。

今年３月、南河内町においても、「道の駅」設置に向けての推進協議会が発足した。今年度中に、設置場所や建築物についての具体的な構想を持って、建設省との協議に入るということである。

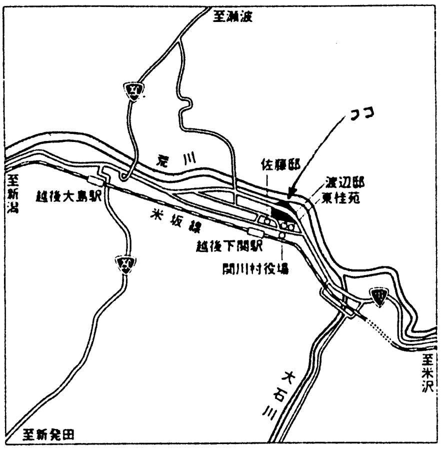
今回の視察では関川村の担当者から、道の駅「関川『桂の関』」について詳しい説明を受け、帰途、道の駅「阿賀の里　楽市じぱんぐ」に立ち寄った。

道の駅：「関川『桂の関』」

○関川村について

- 関川村は、新潟県の北部に位置し、山形県に隣接する農山村である。村内をほぼ東西に、一級河川である荒川が流れ、それと平行して「もみじライン」と呼ばれる国113号線が走っている。
- 面積は300k㎡。31.5k㎡のわが街の１０倍の広さ。人口は8095（平成7年3月）。予算規模は49億3400万円（平成7年度）。歳入の45.5％を地方交付税交付金が占める。
- 過疎の豪雪山村地域ということで、それに対する国の諸施策の地域指定を各種受けている。村の重点施策の第１番目に「村の活気を高める」というのが掲げられていて、54ある集落がそれぞれ元気になることで、村の活力を高めようと「むらづくり54作戦」を展開中とのことであった。（村民の涙ぐましい努力の前に、都市化の恩恵を受けて暮す者としての一種の罪悪感が頭の中をよぎった。）
- 重点施策の２番は、高齢者福祉の充実。村人口に占める65歳以上の方の割合は24％。
- 重点施策の３番。観光の振興。村には、４つの温泉郷やアウトドアライフを楽しめる様々な施設がある。また、旧米沢街道の江戸時代の街並みを残す「渡邉邸」などがあり保存されている。この渡邉邸周辺整備事業と建設省の「道の駅」構想が結びついて関川村の「道の駅」は誕生した。

○道の駅「関川『桂の関』」



「建設設計資料 53 道の駅」より

●設置位置

路線名；国道113号線バイパス

1日平均交通量／7000台（南河内の新4号線は1日30000台）

●事業概要

事業費；建設省　5億4400万円

村　16億0090万円

（内訳）

・補助金　1億5000万円（県広域観光拠点づくり）

・地方債　11億0420万円

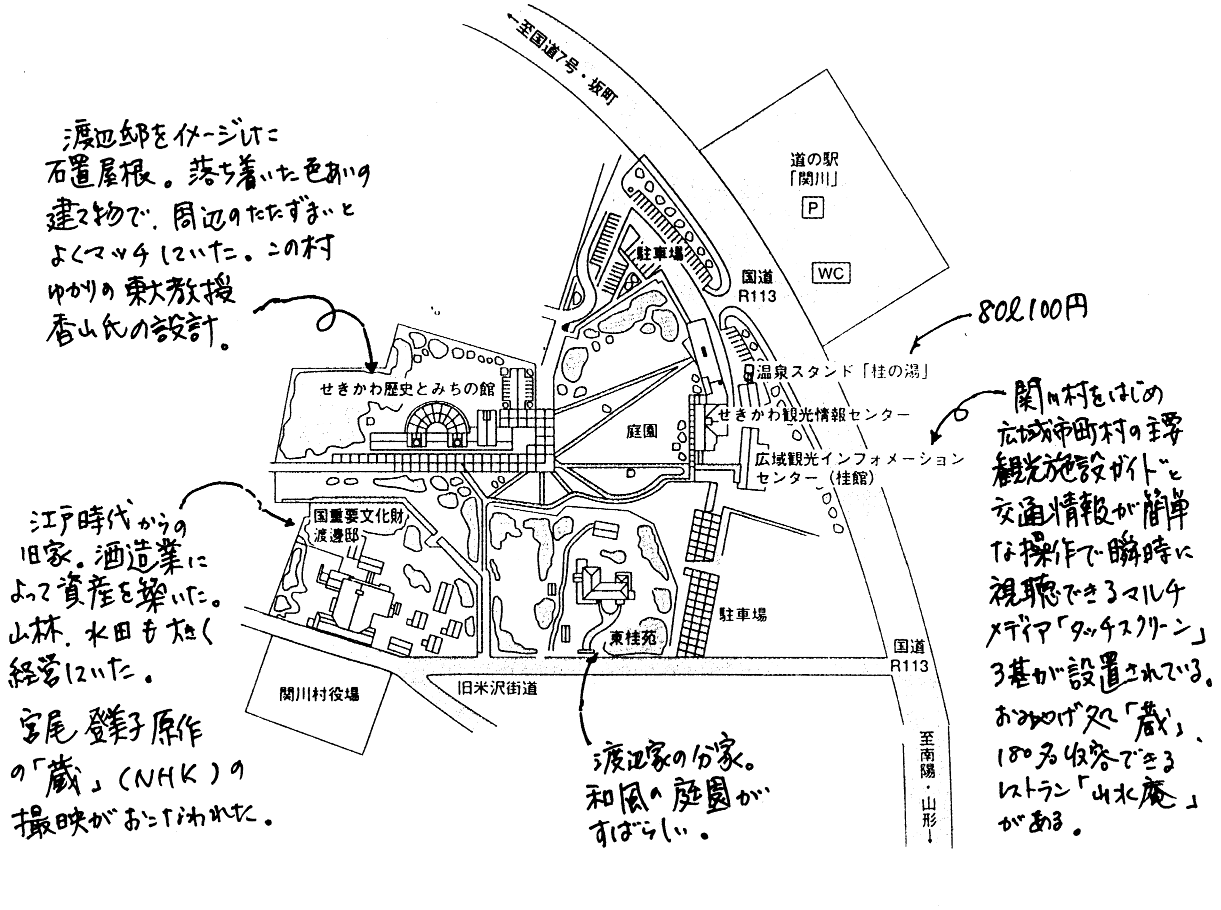
- 地域づくり分　2億4680万円
- 地域総合整備　7億7650万円
- 過疎債　6100万円
- 一般起債　1920万円

・一般財源　3億4670万円

●管理運営

管理主；関川村役場、建設省　／　運営主；（財）関川村自然環境管理公社、建設省

関川村自然環境管理公社は、村の委託を受けて、村有観光諸施設の管理運営と、自然保護活動を行ない、また、村の特産品の調達など、村が行なう経済活動の推進母体となっている。公社にかかる年間の経費は9000万円。その内「道の駅」関連は2000万円だそうだが、人的配置などを考えると、もっとかかっていそうであった。



関川村の「道の駅」については以上であるが、帰りに立ち寄った道の駅「阿賀の里　楽市じぱんぐ」は、全く別な雰囲気であった。

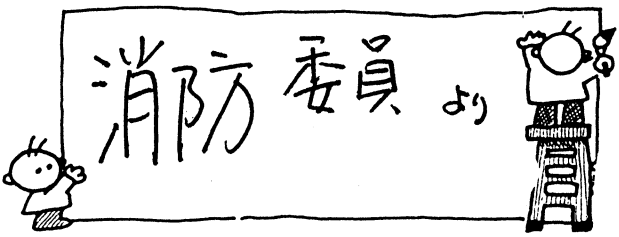
「楽市じぱんぐ」は、阿賀野川ライン下りの下船所のある所で、もともと民間がレストランなどをやっていた。そこに文化資料館やイベントホールを設置し、周辺一帯を「道の駅」として新しく生まれ変わらせたというものである。

魚市場を「魚匠」、特産品販売所を「夢蔵」、全体を「楽市じぱんぐ」と奇抜な名付けをしているあたりに商売慣れしている感を持ったが、やはりここのケースでは、株式会社阿賀の里(第三セクター)が事業主体であった。出資額については、株式会社阿賀の里が8億5900万円、村が3億1600万円、県が1億円 となっていた。管理運営も株式会社阿賀の里。

商売っ気のない「桂の関」と、売らんかなの「楽市じぱんぐ」。両極端の「道の駅」であったと思う。土地の文化や歴史を彷彿とさせるといった意味では前者が勝っていたし、採算といった面では後者のようにたくさんのモノを売ったほうが勝ちなのだろう。

とにかく「道の駅」というものの形は、本当に様々だということが分かった。建設等にかかった費用も3億円位～16億円位と色々である。管理運営も自治体直営あり、財団法人・株式会社ありと多様である。自治体が「道の駅」に何を託し、何を実現したいのかによって、その姿が決定される。設置にむけて推進という前提で考えるならば、地方自治体の創造力（自己表現力）がおおいに試される施策であるといえる。「推進協議会」の役割の重大さは言うまでもない。

それにしても、建設省は、道路管理にかこつけて、なぜこんなに大きなプロジェクトを、夢いっぱいの定義をして誘っているのだろう。



県南や茨城県結城市周辺などで不審火が続発していることは、新聞報道などでご存じと思いますが、去る7月15日午後9時50分頃、国分寺町駅東のスーパー「八百安」が全焼し、不審火だということでした。

一連の放火魔が南河内近辺にも出没しはじめたのではとの危機感から、夜間（9:00～11:00）南河内町消防団による全町見回り巡回が行なわれていたことをご報告します。火事のあった15日の翌日から行い、結果的に容疑者逮捕までの約一週間でしたが、取り組みの早さには敬服します。赤色灯をつけて夜道を流している消防自動車にすれ違った方もいらっしゃるのではないでしょうか。

町の総務課では、住民の皆さんに注意を呼び掛けようとチラシの作成準備に入っていたのですが容疑者逮捕となったので、見送ったようです。チラシには３つのお願い事項が書かれていましたので紹介します。容疑者逮捕のいかんにかかわらず心がけたいことと思いますので。
（磯辺）

①家のまわりに、燃え易い段ボール箱、新聞紙等を置いておかない。
②バケツ等に水の汲み置きをする。消火器を用意し何時でも使えるようにしておく。
③不審な車や人に注意。（容疑者は車で移動していたので）



村尾光子の
教育民生常任委員会研修報告

7月10・11日の日程で宮城県南郷町の24時間巡回型ホームヘルプサービス事業と中新田町の文化会館（バッハホール）を視察見学しました。

1.南郷町24時間巡回型ホームヘルプサービス事業

（1）南郷町概要

仙台市から北へ40Kmに位置し、面積39.52Km²、その73.5%が水田という典型的な水稲単作地帯。ばら・いちご・トマト(水耕栽培)も生産している。農家世帯は63.3%。

人口：7606人（H8.4月1日現在)、高齢化率：21.2%(南河内町:10.8%)

ねたきり者：42名(南河内町62名)、一人暮らし高齢者：56名、

痴呆老人：25名

◎一般会計予算：34億1121万円(H8年度当初予算)、自主財源23.3%

（南河内町:64億1800万円）　　（南河内町:51.4%）

歳出のうち民生費　4億2088万円（南河内町:5億2597万円）
- 社会福祉総務費　8000万円
- 長寿社会対策施設管理費　2302万円
- 老人福祉費　1億3081万円

衛生費　3億9486万円（南河内町:5億2580万円）
- 予防費　723万円
- 老人保健事業　3436万円
- 病院整備費　1億 689万円

◎国民健康保険特別会計：5億8660万円（南河内町:8億5078万円）

◎老人保健特別会計　：6億1003万円（　〃　:9億3496万円）

（2）『活き生き田園ランド南郷21構想』の実践

保健・医療・福祉・交流をキーワードとし、誰もが安心して住める環境づくりは勿論のこと、幼児から高齢者及び心身障害者を含むすべての町民が青空の下に行う開放的な健康づくりや生きがいづくり、町内外の世代間の交流を通して、全国に誇れる「活き生き」とした長寿社会の創造を目標とするもので、この構想は自治省のリーディングプロジェクト事業としてH2年に採択され、H6年度までに各施設が整備された。

《施設》	建設費		職員数
健康づくりの広場	3億9237万円	(野球場1面・テニスコート3面・ゲートボール3面)	兼1
スイミングセンター	9億1412万円	温水プール	兼1
活き生きセンター	4億6472万円	中核施設	12
交流館・交流の森	4億 919万円	宿泊施設・61人収容可能	兼11
医療センター	12億9231万円	50床、内科・外科・小児科	37
多世代ふれあい公園	1億7926万円	築山・親水池・リハビリ施設	
※特別養護老人ホーム（いなほの里）	10億1067万円	50床、在宅介護支援センター・ショートステイ(20人) デイサービスセンター・ヘルパーステーション	42
合計	46億6279万円	(うち起債額は32億3422万円)	91

※社会福祉法人南郷福祉会を設立して運営管理にあたっている。設立に際しては理事(町内有識者)11人が100万円ずつ出資した。現在満床、町民7名入所、4名待機中。ディサービスは月～金曜日に実施、17～18人/日の利用。施設長は元県職員の女性。施設ボランティアの登録者は79名、毎週水曜日に活動している。

・在宅介護支援センターには町が保健婦1名・介護福祉士1名を派遣。H7年度の相談件数は1300件(うち500件は実態訪問調査、500件は来所相談)。
・医療センターでは訪問看護・訪問診療にも対応する。
・活き生きセンターには保健福祉課も入居、特養ホーム・医療センターへ廊下で接続。
・社会福祉協議会は徒歩5分の所にあり、訪問入浴サービス、一人暮らし高齢者への配食サービス(200円/食、調理・配食はボランティア)、ボランティア育成事業を行う。

南郷町の特徴

①町立病院(医療センター)、保健福祉課、福祉サービス施設が一つになっている
②医療保健福祉サービスが一元的に提供できる。
③ケアマネージメント機関としての在宅介護支援センターがある。

(3) ホームヘルプサービス事業

H7年4月より南郷福祉会に委託した。従来からの滞在型ヘルプサービスに加え、H7.10月より24時間巡回型ヘルプサービスを導入した(県単独補助事業)。県との協議、町関係者打ち合わせ、対象者選定、ケアプラン作成、システム検討等、開始までの準備期間は5ヶ月程。

ヘルパー数　南郷福祉会正職員　6名(主任 1名)
　非常勤職員　6名　時給:日中 830円、夜間 1290円
　24時間巡回型の従事者は原則として正職員、6人体制で人件費1800万円
　介護者1級有資格者4名、無資格者は施設で実習後、3級を取得する。

勤務形態　巡回型は宿直・日勤・遅番の組み合わせ、チームで対応する。
　主任ヘルパーは日中は連絡調整係として待機する。

サービス利用者　51名、巡回型利用者は14名(うち夜間早朝訪問者は9名)
　巡回型の対象者には40歳以上の痴呆、身体障害者(年齢制限なし)を含む

在宅支援センターで立てた個別のケアプランに基づき、主任ヘルパーがタイムスケジュール・介護手順書・業務手順をつくる。

巡回型の業務内容
　排尿介助・おむつ交換・体位交換・陰部清拭・洗浄・全身清拭・部分清拭・
　食事介助・服薬介助・マッサージ・体温測定等

巡回回数　31回/日　1日訪問回数/人:最多6回、最少2回　平均3回
　1回訪問時間　:最大51分、最低2分　平均18.7分
　夜間早朝は1チームで、日中は2チームであたる。1チームの対象者は8名

利用者負担額:所得に応じて最高910円/時、月3万5千円位

《ホームヘルプ事業の目標》

おむつ交換は5~22時の間に6回実施
入浴は週2回、または、週2回の全身清拭
食事は3食温かいものを

巡回型ホームヘルプサービスの特長

滞在型は個々のヘルパーにより対応に仕方が様々であるのに対し、巡回型は必要なときに必要なことをする。決められたこと以外の要求をされたときや状態が悪くなったときは、ヘルパーは直接応えず主任ヘルパーに連絡する。

先ずは、在宅介護支援センターの整備が急務と再認識した。高齢化率が高い農村地域だからこそ先進的な福祉施策に取り組まれたのだと思う。しかし、人事ではない。明日は我が身だ。『必要なときに必要なサービスを』は福祉の原点、巡回型ヘルプサービスを導入するためにはやはりヘルパーの資質向上と医療・福祉・保健の連携が不可欠だった。

2．中新田町文化会館（バッハホール）　Bach Hall

（１）中新田町概要

仙台市から北へ36Ｋｍ、面積61．44Ｋｍ^2 人口14000人程、水稲・果樹・野菜の栽培や酪農が盛んで、工業団地には10社以上の企業が操業している。

H8年度町一般会計当初予算額は５３億４０００万円。

（２）文化会館（愛称バッハホール）

Ｓ56年2月15日に開館し、本年１５周年を迎えた。S54年に町民代表による建設委員会を設置し、構想を検討。

《施設概要》

建設費　　：７億５千万円　うち　9900万円：工場再配置法による通産省補助金
　　　　　　　　　　　　1億3000万円：県補助金
　　　　　　　　　　　　4億円　　　：起債

建設基本構想　　　東北工大助教授　材野博司
音響設計技術協力　ＮＨＫ総合技術研究所

ホール客席：７８０席（固定席660、補助席120）
付属室　　：音楽資料室・リハーサル室(2)兼控室(4)・特別控室
主要備品　：パイプオルガン・ピアノ(スタインウェイ・ヤマハＣＦ)・チェンバロ
　　　　　　仮設花道・所作台・松羽目
建物設備　：残響可変壁

H7年度に舞台吊り物改修実施、H8年度は音響と空調設備の改修(工費約１億円)予定

《管理運営》

管理機関：教育委員会社会教育課　職員５名
　　　　　　　　　　　　　社会教育指導員(非常勤、音楽専門)１名
施設維持費：６０００万円、人件費：３０００万円

自主企画事業：予算1500～2000万円、クラシックを中心に年１０本
集客率５～８割(町民は2割程)、チケット売り上げ収入は企画の６割
パイプオルガン演奏会１～２回/年
開催日には仙台駅からの直通バス（バス会社との契約、往復2400円）と
新幹線古川駅から無料バス(町有バス)を運行

ホール利用率：９１．９％(使用日数/使用可能日数×100)
リハーサル室は夜間無料開放している。

- 小中学生音楽鑑賞会は各学校の予算を合わせて(250～300万円)バッハホールとの共催事業として毎年１回開催、
- バッハホール・ソサエティ(友の会)：会員は全国に１３００人
  年会費1500円、毎月イベント情報や演奏会案内送付、入場料１０％割引の優遇
- 町文化協会への補助はH8年度から６０万円。会員数は1000人、加入団体64、総務・事業・広報の部会に分かれて自主的な活動をしている。
- 毎年11月第2土曜日には秋祭りが実施される。農協・商工会・文化協会が中心になって実行委員会を組織する。委員長は町長ではない。

人口・予算等、数年前の我が町とほとんど同じ。15年も前にこのホールが建てられたことに驚いた。憧れのホールは意外にこじんまりとして、華々しさはなかった。音響設備が優れたものであるからこそ、『中新田町のバッハホール』の名は日本中に、世界中に知れ渡った。音楽好きな人には誠に羨ましい限り。民謡・お芝居・映画会落語と様々に活用できる多目的性も備えている。南河内町にも欲しいと痛感した。

荒井英子の研修報告



経済常任委員会視察研修（平成8年7月15〜16日）

①農業公社（群馬県佐波郡玉村町農業公社…平成5年3月設立）：7月15日研修

１玉村町の概況

		南河内町
①総人口	34264人（Ｈ8.2.1）	…約20000人
②面積	25.86 ｋ㎡	…31.53 k㎡

③近年、周辺都市部（前橋市・高崎市・伊勢崎市に取り囲まれている）のベットタウンとして開発が進んでいる。

２玉村町の農業

		南河内町
①総農家数	1058戸（Ｈ7.2.1）	…1099戸
②農家人口	4768人（ 〃 ）	…5354人
③認定農業者	36戸	…75戸
④農業粗生産額	29億68百万円	…48億20百万円

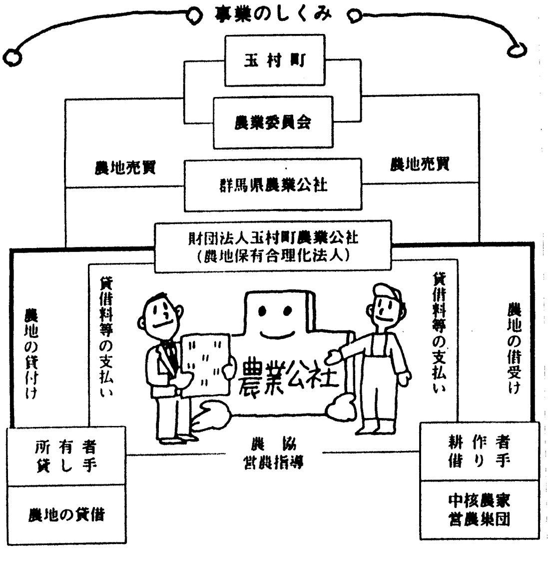
農業公社とは…農地を借り入れて、規模拡大農家へ貸したり、農地の集団化をすることができる法人（農地保有合理化法人）として、知事が指定した公的な団体。

玉村町農業公社の機能と特徴：地域農業振興の長期的サポート役として位置付け、三つの機能を持たせた。

☆農地の利用調整（利用集積）と農地保全 → 米麦作農家へ農地の利用集積

☆農業機械銀行 → ラジコンヘリコプターの貸し出し（1機 800万円. 6機保有）

☆農産物の加工と販売 → 玉村の小麦を原料にしたうどん等、地元農産物による商品開発



研修先を検討する際に、機械銀行という項目にひかれ、ぜひこの仕組みを見聞きしてきたい、農家の経営に大きくのしかかっているであろう機械の購入、維持の問題が解決されているのではと期待して望んだのですが、ラジコンヘリを貸しているだけとのことで、少しがっかり。農地の集約に伴って、機械も大型化が必要であろうし、これを戸々が購入していたのでは負担増の面がでてくる。農地の集約の仕方として公社の在り方を考えていくと共に、農業機械を公的に管理運用していく仕組みを考えていくことも必要ではないかと思います。

②道の駅なるさわ　：7月16日研修



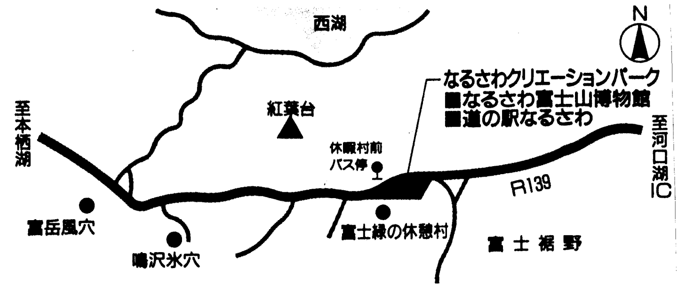
（山梨県南都留郡鳴沢村…平成7年8月オープン）

1鳴沢村の概要

①総人口　2800人
（過疎ではない）

②面積　93.53ｋ㎡

③山梨県の南東に位置し、南は富士山頂で静岡県に接する。
富士山頂まで行政区域

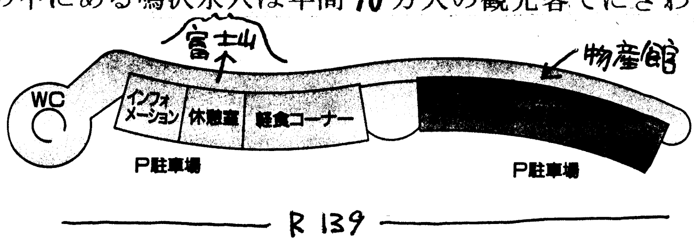


④首都圏日帰り圏内の立地と交通条件により、人口増加がみられる。

⑤テニスコート、ゴルフ場等が数多く造られ、人工スキー場、別荘も3000戸を数える、通年型のリゾート地。

⑥青木ヶ原樹海とその中にある鳴沢氷穴は年間70万人の観光客でにぎわっている。

2道の駅なるさわ



国道139号沿い、乗用車106台・大型車15台が収容できる駐車場、地域の産物を直売するＪＡ鳴沢物産館、軽食コーナー、休憩室、トイレを完備している。

★敷地面積　　9.3ｈａ（村有地を活用）
★事業費　　5億8千万円（建設費として）　設計費　3000万円
★維持費　　1200万円（休憩室、インフォメーション、駐車場、トイレの維持管理代）　掃除はシルバー派遣。

※軽食コーナー、物産館はＪＡが運営、賃貸料として100万円／月を支払っている。（これで村が支出している維持費がﾌﾟﾗｽ､ﾏｲﾅｽ0になる。そして、ＪＡの売り上げは、年商3億円とのこと。）

国道139号は、観光道路としてもともと需要のあった道路。そこへ村として目をつけたのは大成功と言うところでしょうか。休憩室からは、真正面に富士の山を見ることができます。（当日はあいにく霞んで富士山は見えませんでした。）
トイレは、力を入れたと言うだけあって設計も良く、清掃も行届いていました。道の駅の原点はトイレ休憩なのだから気持ちよく使うための管理は重要になってくるところでしょう。これにどんな付加価値をもってくるかは、地域性による。因みになるさわには、道の駅の施設のほかに、テーマパーク「富士山博物館」等の建設（建設費19億円、展示物5億円）も予定されている。